

## ユニーク「目安箱」8作品制作



### 三戸高校クリエイティブ部

**三戸** 三戸町の三戸高校（直町年行校長）クリエイティブ部は、地域社会の課題解決に向けた新たな試みとして、町民から困りごとを募るための「目安箱」を作った。町名産のリンゴの木や園主・三戸城跡を象徴するお城、神社のさい銭箱をイメージしたデザインなど8種類のユニークな作品が完成した。町役場をはじめ町内の公共施設8カ所に順次設置し、町民からの投書幅広く受け付け、生徒たちがその解決策を考えていく。

（藤田幸雄）

### 町民から困りごと募る

個性あふれるユニークな目安箱を作った三戸高校クリエイティブ部の生徒たち

同校は2023年度にクリエイティブ部を新設し、コピーライティングやイラスト、デザインなどの情報発信の基礎を学んでいる。目安箱の設置は、地域連携プロジェクトの一環として初めて実施した。

「入れてける」と名付けた目安箱は1、2年生12人が昨年11月からアイデアを練り、制作に取り組んだ。町民の目を引くデザインや親しみやすさを重視した個性あふれる作品ばかり。「ころぼん！」は意見を記入した用紙をカプセルに入れて箱の上部から投入すると、カプセルが転がりながら下に落ちていく仕組みで、視覚的にも楽しめるよう工夫されている。また、最も大きなリンゴの木をかたどった作品には、赤いリンゴの実と緑の葉をイメージした2種類の用紙を用意。町民はどちらかを選んで意見を書いた後、それを木の枝に貼り付けていく。多くの意見が集まれば、まるでたわわに実がなったリンゴの木のように見える仕組みという。

町役場でこのほどお披露目会が開かれ、生徒たちは自らの作品の狙いやこだわった点などを紹介。リンゴの木を作った志賀美鈴さん（1年）は「たくさんの方が集まったということが一目で分かる作品にしたかった」、熊谷梨希さん（同）は「活気あるより良い町になるよう少しでもお手伝いしたい」と語った。

目安箱は町役場のほか、中央公民館や図書館などに設置する。生徒たちが定期的に投書を取り出し、解決策を考えて実践するほか、町にも提案していくという。沼沢修二町長は「町としても町民の声をしっかりと受け止め、サービスに反映させていきたい」と話した。